

イギリスにおける障害児支援の実際 —Beyond Autism のオンライン視察から—

藤田藍津子¹⁾・葛原誠太²⁾

Support for children with disabilities in the United Kingdom
—An online inspection of Beyond Autism—

Atsuko FUJITA・Seita KUZUHARA

要旨

イギリスは障害児支援や小児看護において先進の国である。今回、ロンドンの西部にある障害児施設 Beyond Autism のオンライン視察を行った。Beyond Autism は、自閉症の人たちが教育経験、就労のトレーニング、家族や支援を通じて、選択した生活を送ることができるようにすることを目的とした非営利団体である。視察を通して、Beyond Autism に通う子どもや家族への支援、日常生活への支援などの点において、医療制度が異なる日本でも取り入れられる事柄や課題を見出せた。また、イギリスにおける障害児支援の専門性の高さを実感したことで、専門職に対する認識を深める機会であった。

キーワード：イギリス、障害児支援、Special Educational Needs (SEN)

1. はじめに

現代の日本では、障害のある子どもが可能な限り教育を受けられるように多様な学びの場が整備され、自立と社会参加を見据えた一人ひとりの教育的ニーズに応える指導を提供できるように、通常の学級・通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった連続した教育環境が整備されている。近年では、訪問型保育、児童デイサービスや放課後等デイサービスといった福祉サービスが充実され、支援者は知識および技術を統合した、高い実践能力が求められている¹⁾。

欧州の先進国であるイギリスでは、「障害のある子ども」という表現よりも、特別な教育的ニーズを有する子ども「Special Educational Needs (SEN)」と一般的に認識されている。これは、医学的診断に基づく障害カテゴリーと

は異なる概念であり、一人ひとりの子どもが必要としているニーズとその教育的対応について言及する用語である。この教育概念が提唱された背景として、1978年に医学的視点の障害カテゴリーは障害のある子ども側の要因としてのみ捉え、障害の有無は明確に区別されるものではなく、連続的なものであるべきという考えのもと、学習の困難さと教育的措置による観点から提唱された。その後、1980年の教育法によって、特別な教育的ニーズの概念は、診断された障害ではなく、学習の困難さや特別な措置や教育的援助について言及する教育的な概念として確立された²⁾。

今回の視察は、Web 会議サービスの Zoom を使用し、イギリスのロンドン西部にある障害児施設 Beyond Autism とリアルタイムで接続したうえで、映像による見学、責任者によるレクチャーを受けた。その視察内容について報告する。

東京家政大学健康科学部看護学科¹⁾

西九州大学看護学部看護学科²⁾

2. 視察の概要

1) 研修内容

施設名：Beyond Autism

内容：イギリスにおける保健医療制度, Beyond Autism に関するレクチャー (責任者：Anthony 氏) と Beyond Autism 内施設である, Park House School, Tram House School の説明, 施設映像, 職員との意見交換であった (責任者, 理事：応用行動分析士, 学校長；理学士, 幼児教育課程責任者：理学士の4名).

Part 1:

- ・ An introduction to Beyond Autism, our charity and services

Part 2:

- ・ Park House School
- ・ Leadership and staffing structure
- ・ Facilities specific to this age group
- ・ Admission and assessment
- ・ Curriculum and approaches
- ・ Setting aspirational outcomes through target setting

Part 3:

- ・ Park House School
- ・ Readership and staffing
- ・ Facilities specific to this age group
- ・ Curriculum and Preparation for Adulthood
- ・ Managing transitions into Adulthood
- ・ Our Sixth Form and Post-19 service

Part 4:

- ・ Questions and answers

2) 視察期間

令和3年3月18日

3) 視察目的

イギリスにおける保健医療制度及び障害児支

援の現状の把握を行い、日本との相違点を理解し地域保健活動や看護教育の参考にする。

4) 視察方法

Web 会議サービスの Zoom を使用し、イギリスのロンドン西部にある障害児施設 Beyond Autism とリアルタイムで接続し、レクチャーおよび質疑応答を行った。

1. 視察先の概要

Beyond Autism はイギリス西部に位置し、自閉症の人たちが教育経験、就労のトレーニング、家族や支援を通じて、選択した生活を送ることができるようにすることを目的とした非営利団体である。Beyond Autism は、学校、Independent Special Schools を運営し、4～19歳の自閉症の子どもと若者に専門教育を提供している。家族と子どものサポートにおいて、19歳以降のサービスでは、19歳から25歳までの自閉症の若者に就労、地域生活の機会を提供している。図1は組織図である。Beyond Autism は非常に支援の幅が大きく、組織が細分化され、生後15ヶ月から、25歳までの教育・支援を行っている。さらに、最終的には地域で生活できる自閉症の子どもと家族への支援を行っている。スタッフは多くの専門職から構成され、自閉症の子どもや若者を教育する専門家である。応用行動分析士 (ABA) と言語や行動に関する専門家 (VB) を採用することにより、教育的環境を整え、可能な限り自立した生活を送るために必要なライフスキルを身に付けることができる施設である。写真1は Park house school を正門写真である。

イギリスには、公立、私立、非営利団体の学校が存在し、Beyond Autism は非営利団体の学校であり、3人の保護者によって2000年に設立された。設立当初は3人の子どもからスター

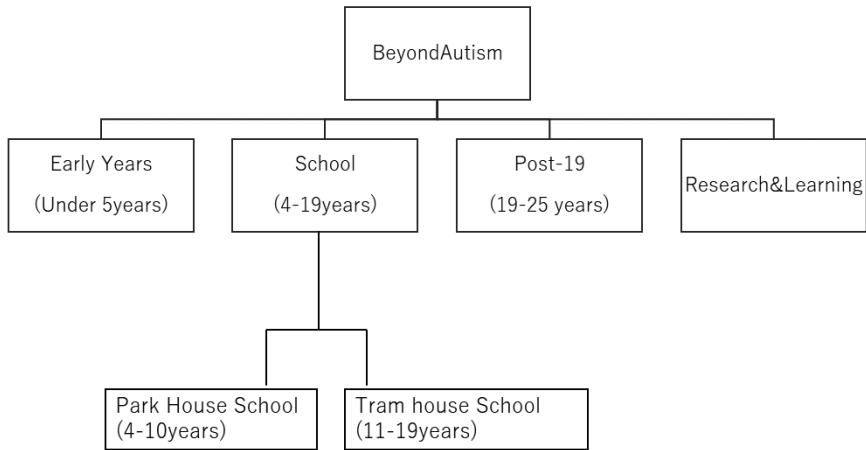


図 1



メインゲート

左側：エアロック式の人の往来用
右側：車両用



外観

正面玄関から見て左の濃い茶色が本館、
右のクリーム&明るい茶色が増築した新館。
正面玄関にある2つの鉄柱には安全のために
青いパッドを装着しています。

写真 1

トし、現在、約130人の生徒（学習者と呼んでいる）が在学する2つの学校と、成人移行へのサービスを行っている。職員は約240人おり、ロンドン全域にサービスを提供している。

2. 視察内容

イギリスの教育に関するレクチャーでは、特別支援の概要について学習した。イギリスでは、子どもへの支援に関して、1) High Quality First Teaching, 2) Special Educational Needs (SEN) Support Education, 3) Health and Care Plans の3つのカテゴリーに分類される。

SENのサポートでは、読み書きの軽度障害は普通学校、一定の特別な支援が必要な場合は、支援に応じた学校に進学する。Health and Care PlansはByound Autismが担っている部分であり、通常のサポートを超えて、生活に即した実質的なサポートを必要とする子どもと家族への支援を行っている。進学に関しては、地方自治体の特別支援部門によって子どもの障害が評価され、進学先が決定する。

教育、健康およびケア計画であるEHCP (Education, Health and Care Needs assessment and plans) は、法的な文書と同様に扱われる。

「EHCP が作成された子どもには予算が保障される。」と強調していたことが印象的であり、その予算によって、Beyond Autism に通う子どもたちの費用が保障されていた。

今回は、Beyond Autism の school である、Park House School と Tram house School について紹介する。

Park House School は、4歳～10歳の自閉症の子どもの小学校である。特徴として、日本とは異なり、通学する全ての生徒に EHCP が作成されている自閉症専門の小学校である。図2は、1日のスケジュールである。

Time	Activity
8.30am - 9.30am	Staff prepare resources for pupils arriving
9.30am - 10.30am	First teaching sessions
10.30am - 11.00am	Break time / snack
11.00am - 12.30pm	Second teaching session
12.30pm - 1.30pm	Lunch time
1.30 - 3.15/30pm	Third teaching session
3.30pm - 5.00pm	Staff complete planning and progress data

図2

障害の特性に応じ、30分おきのスケジュールになっている。写真2は、低学年用の教室である。

Beyond Autism には、応用行動分析士 (ABA) と呼ばれる心理系の大学を卒業した専門家がいたことが特徴的であり、日本でいう担任のような役割を果たし、1人の応用行動分析士 (ABA) が4～5人を受け持っている。応用行動学とは、科学的根拠に基づいた学習と行動に関する学問である。応用行動分析士 (ABA) は、個人に合わせて個別化された重要なスキルの指導を行い、行動がどのように機能・作用し、環境へのどのように影響するのかを理解する専門職である。応用行動分析士 (ABA) は、応用行動分析学に基づいた反復的な指導と継続的に結果の追跡を行い、楽しくて個別に応じた学習を通じてプログラムを実践している。これらを学習の中に適用することで、言語とコミュニケーションの向上、および学問的スキルと自助スキルの向上に役立つとされている。

生徒 (学習者) のアセスメントにおいては、独自のアセスメントツール (VB-MAPP) を用いてアセスメントを行い介入している。VB-MAPP のアセスメントは、言語、行動、加配等から構成され、0～48か月ごと支援プログラ



写真2

ムは見直され、言語や行動に着目して教育支援を行っている。

Tram house School は、2018年に開校し、成人期への移行に向けた11歳～19歳の自閉症の学校である。大学とのつながりもあり、行政サービスが成人へのサービスへ移行する時期であり、社会で自立するための支援を行っている。職員は心理系の大学の出身であり、多くの職員が修士号を取得している。また、職員が継続して教育に関する学びが深められるように、修士課程に進学できるように支援を行っている。生徒（学習者）の中には、自閉症と共に、薬物投与の治療を受けていることも多く、職員は、応急処置、薬物投与、メンタルヘルスの対応、健康と安全に関する支援も行っている。これらは、生徒（学習者）のかかりつけ医に直接職員が出向き、具体例として、I型糖尿病の自己注射、てんかんのある子どもへの対応等のトレーニングを受けている。これらのことから、職員たちは医療的な専門家によって必要な知識と技術を身に付けている。

Tram House school の16歳から19歳はソーシャルスキルを身に付けることに重点を置いている。ロンドンにある大学との交流、食堂や図

書館の使用方法、パソコンの使い方、健康管理のためのジムといった内容である。写真3は、Team House schoolの一部である。成人の使用するような雰囲気で作成され、生活に即した実用的なつくりになっている。

3. おわりに

今回の視察を通しての新たに得た視点は次の3点である。はじめに、インクルーシブの考えに基づいた³⁾資金と持続可能性、職員の専門性、医療との連携である。資金と持続可能性について、EHCPが作成された子どもには地方自治体から予算が保障され（€65,000）、学校に関する費用を地方自治体が支払っている。EHCPが作成されることでBeyond Autismのような、早期支援から成人移行の支援を継続的に行うことを可能にしている。次に、職員の専門性として、日本では教員免許を取得した職員が多いが、Beyond Autismには行動と心理の専門家多く存在していることである。教育的な役割を担いつつ、行動や心理に重きをおいた生活に即した支援を行っていることがわかる。日本においても応用行動分析学に基づいた特別支援⁴⁾が行われており、適応した行動への効果があるとの報



ランチ & 交流スペース
(現在は COVID-19 検査で使用)

併設するキッチンスペース

写真3

告がある。最後に、医療との連携では、学校の職員が医療現場に出向いてトレーニングを受けることが、イギリスの保健システムの中に組み込まれていることである。日本では、教育現場と医療現場の間に存在する敷居は高く、当たり前のように連携できるシステムの構築は課題が多いのが現状である。

2013年の子ども若者白書⁵⁾によれば、特別支援教育を受けている児童・生徒の割合は2.5% (約38万人) となっている。この割合は10数年間と比較すると、約2倍近い増加になっている。地域に暮らす障害のある子どもたちが、人格形成の非常に重要な時期において、固定された「教育」「医療」という枠組みだけでは、子ども自身の考えや思い、家族の意向が汲み取られ安心して、自ら選択肢を多く持って暮らせる社会が必要であると考えた。

以上のことから、日本においても、多様な背景をもつ子どもの発達と成長が保障される基盤づくりの必要性が示唆された。

4. 謝辞

この視察のために多大なご協力をいただきましたBeyond Autism のスタッフの皆様、オンライン視察の調整をしてくださったアトラス旅行のスタッフの皆様、通訳の安藤裕子様から心からお礼申し上げます。

本研究は、JSPS 科研費 JP17K18129 の助成を受けて行った。

掲載した写真は Beyond Autism の許可・承諾を得ている。

引用文献

- 1) 藤田久美 (2019). 幼児期の障害児通所支援に携わる支援者の専門性向上のためのコンピテンシーモデルの検討 山口県立大学社会福祉学部紀要, 25, 25-37
- 2) 高橋真琴・津田英二・久井英輔 (2009). 特別な教育的ニーズに関わる支援者の態度形成-英国マンチェスター地区実態調査からの考察- 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要, 2 (2), 83-92
- 3) 是枝喜代治 (2014). イギリスにおけるインクルーシブ教育の実際 ライフデザイン学研究, 10, 265-282
- 4) 佐野舞花 (2021). 通常の学級と通級における効果的な連携の在り方に関する研究 上越教育大学教職大学院研究紀要, 8, 71-80
- 5) 厚生労働省:平成26年版 子ども・若者白書, https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h26_honpen/b1_03_01.html

Abstract

The United Kingdom is a nation having an advanced system of support for disabled children as well as an advanced pediatric nursing system. Here, we conducted an online examination of Beyond Autism, a facility for disabled children located in West London. Beyond Autism is a nonprofit organization aimed at providing educational experience, job training, and family support to individuals with autism to allow them to lead the lives of their choice. This study identified the types of support provided to the children who attend Beyond Autism and their family members (direct support, daily life support, etc.) that could be adopted by Japan, a country with a different medical system, as well as the issues faced by the United Kingdom that are also applicable to Japan. In addition, this opportunity allowed us to understand that the United Kingdom has a high level of expertise in the field of support for disabled children and thus gain a deeper sense of professionalism.

Keywords : United Kingdom, support for children with disabilities, Special Educational Needs (SEN)